



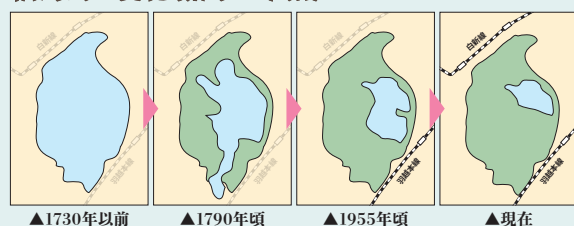
撮影：波多野孝氏 ▲春に咲く一面の菜の花



写真提供：田辺修一郎氏 ▲干拓前の福島潟の様子



福島潟の変化(排水と干拓)



福島潟の本格的な干拓は、阿賀野川の河口が開削された1730年から始まります。一気に排水が進んだ土地を、江戸中期の人々が勇んで干拓していきました。その後、干拓は頭打ちとなりますが、戦後に新井郷川排水機場が完成して排水が進むと、さらに干拓が進んで現在の姿となりました。



多様な生物の宝庫、自然豊かな湿地に
福島潟の生態系は、排水や干拓を繰り返す中で変化し続けています。現在は浅い水域にヨシ帯が広がり、越冬数日本一のオオヒシクイや日本海側における北限のオニバスをはじめ、多様な水辺の生き物が生育・生息する豊かな湿地となっています。

排水と干拓を繰り返し、現在の姿へ
かつては白新線と羽越本線の間を埋め尽くすほど広大だった福島潟は、江戸期の大規模な治水事業などによって干拓が本格化します。戦後に排水と干拓がさらに進展して、現在の姿となりました。これまで何度も水害に見舞われた福島潟周辺では放水路も完成し、現在は干拓地の一部を再び潟に戻して遊水池にもするなど、全国でも珍しい自然との調和を両立させた工事が進められています。

新潟砂丘にふさがれて誕生した潟湖
越後平野には村上から角田山まで海沿いに、巨大な砂丘列が形成されていて「新潟砂丘」と呼ばれています。縄文時代から形成され始めたこの砂丘列はかつて、大小問わず河川の河口をこごとくふさぎ、越後平野を「水びたしの大地」にして、様々な潟湖を出現させました。福島潟もそのうちのひとつで、新潟市では最大の面積を有します。



P4～5に使用されている写真及びイラストは一部をのぞき、水の駅「ビュー福島潟」及び佐藤安男氏から提供していただきました。

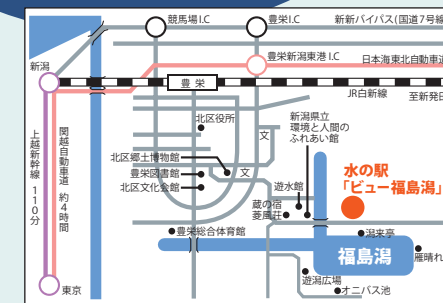


▲水の駅「ビュー福島潟」は平成26年度から、指定管理者「福島潟みらい連合」が運営して、様々な取組を展開しています。

阿賀の宝もん ★発掘レポート

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを流域の未来に生かす取組を、毎号掲載。

水・の・駅 vol.5 ビュー福島潟



- 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日：月曜日(休館日が祝日の場合は翌日)、年末年始(※4階以上をご利用の場合は入館券(一般400円、小中高生200円)が必要となります。)
- 住所：新潟市北区前新田乙493番地
- TEL：025-387-1491 ●E-mail：hishikui@pavc.ne.jp
- URL：http://www.pavc.ne.jp/~hishikui/index.html

平成7年に新しい福島潟がオープン
「今の親しみやすい景観とは違って、幼い頃の福島潟は畏怖の念がわきあがるほど広大でした」水の駅「ビュー福島潟」の島吉郎館長がそう述懐するほど、昔の福島潟は「水の海」のように広く、舟が何そうも往来し、様々な自然の恵みを享受できる場所でした。しかし、高度経済成長を経て人々の暮らしは潟から遠ざかり、人の手が入らなくなった福島潟は荒廃し始めます。その後、福島潟の景観を取り戻そうと、平成の時代に入って水の公園の整備が本格化し、平成7年に水の駅「ビュー福島潟」がオープンしました。

人と自然の新しい関係を紡ぐ先に
現在の福島潟では水の駅「ビュー福島潟」を発信や活動の拠点として、自然学習園やキャンプ場「潟来亭」(休憩施設や「雁晴れ舎」(環境省設置の野鳥観察施設などが運営されています。)

福島潟をとりまく活動も多彩で、昔ながらの漁場としての利用はもちろん、地元の人々を中心に「ヨシ焼き」や「福島潟クリーン作戦」などの環境保全活動も取り組まれています。さらに、「自然文化」を合言葉に、「ヨシあし和紙の会」や「鳥彫会」などの様々な団体が思い思いに潟を楽しむなど、人と自然との関係づくりが広がっています。

「今後は、治水や歴史文化といった観点からも様々な地域や団体との連携を深めていきたいですね」と、水の駅「ビュー福島潟」事務局長の佐藤安男さんが抱負を述べると、島館長も「福島潟が人々の心と体の健康づくりの場にもなれば…」と福島潟のこれからを熱く語っていた姿が印象的でした。

イチオシ企画! 9/7(土)～10/6(日)
地元学シリーズ 第19弾
ねし展
「ねし」とは方言のことで、「ここは福島潟しかなかったねし」など、この土地独特の言葉遣いが、福島潟の記憶を呼び起こします。
地元の人々から聞き取った話を「方言」をキーワードに紹介します。



▲福島潟をとりまく活動のうち、特に秋に開催される「福島潟自然文化祭」では「雁迎灯」が圧巻(写真左)で、「潟の楽校」「潟鍋合戦」なども体験できます。

P4～5のページの文は水の駅「ビュー福島潟」から提供いただいた資料などから一部引用して作成し、図のデザインはパンフレットなどに掲載された図の一部を改変して引用しました。